

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06325

研究課題名(和文) ライフスタイルと脳の働き - 超高齢社会を生き抜くための心理学 -

研究課題名(英文) Lifestyle and Brain Function: Inquiry in Psychological Science into Successful Aging

研究代表者

積山 薫 (Sekiyama, Kaoru)

京都大学・総合生存学館・教授

研究者番号：70216539

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 101,800,000円

研究成果の概要(和文)：3～4か月の短期的な運動や楽器練習をおこなう介入研究では、練習により高齢者の認知機能が向上するとともに、脳の部位間の活動同期レベルが減少し神経処理が効率化することが分かった。横断研究において、幼少期からのスポーツや楽器の訓練は、加齢により萎縮しやすい脳部位の灰白質容積を維持する可能性が示唆された。また、機能が低下している高齢者は視触覚統合場面において視覚情報を過度に用いること、高齢者は異世代の若者から伝えられた情報を記憶する神経ネットワークが低下していることが分かった。さらに、高齢者の歩行中の衝突回避訓練に有効なバーチャルリアリティを開発することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、高齢期の認知機能の維持に良い効果を持つと思われる運動や楽器練習の効果を、認知機能検査による行動的指標のみならず、その神経基盤も含めて科学的に明らかにした。また、多感覚知覚の観点から弱っている高齢者の特徴を明らかにし、バーチャルリアリティを用いた歩行制御訓練を可能にしたことは、高齢期の転倒防止につながると期待される。高齢期に転倒・骨折すると、入院中の不活発な生活で認知症を発症するケースも少なくないため、こうした知見は有用である。さらに、高齢者が異世代の若者から情報を伝えられる際には、同世代からと比べて記憶面で困難があることが示され、周囲の配慮に関する示唆が得られた。

研究成果の概要(英文)：Intervention studies showed that three to four month-practice of physical or musical instrumental exercise improves older adults' cognitive function and increases their neural efficiency in the form of reduced functional connectivity. Cross-sectional studies revealed gray-matter volume differences between old musicians and non-musicians, and between old athletes and non-athletes, suggesting that life-long sports or instrument training from early in life maintains brain volume in areas where age-related shrinkage is prominent. Behavioral experiments revealed that older adults with declined function heavily depend on visual information in during visuo-tactile integration. An fMRI study showed that older adults have declined brain network for maintaining memory of which source is a young adult. We successfully developed a virtual reality system that will enhance older adults' ability to avoid collision during walking.

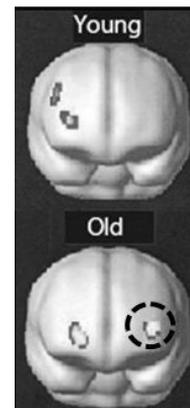
研究分野：実験心理学・認知神経科学

キーワード：可塑性 認知機能 加齢 MRI 脳 行動

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 認知機能や運動機能の個人差が拡大する高齢期において、多くの人は徐々に日常生活の自立度が低下し支援が必要になる一方で、一部の人は自立した生活を維持しているのはなぜなのだろうか。この問いに答えるためには、さまざまなライフスタイルが高齢期の脳・認知機能維持に与える影響を明らかにし、その一般的な機序を解明することが急務である。本研究では、この問題に取り組む。

(2) その際、近年の加齢認知神経科学において報告されている前頭前野などの脳部位の「過活動」に興味もたれる(右図の点線内: Cabeza, 2002; Park & Reuter-Lorenz, 2009)。この過活動は、「脳の衰えを補おうとする」補償的な役割とされることも多く、研究代表者らの予備的データでもこのことが示唆されていたが(Kawagoe et al., 2015)。一方で異論もあり、論争が続いていた。本研究ではこの点を1つの柱として研究を進める。



## 2. 研究の目的

(1) 高齢期の脳・認知機能に良い効果をもつと考えられている運動や楽器練習は、どのようなメカニズムで効果を生み出すのか、その神経基盤を明らかにすることを目的とした。

(2) 高齢期の転倒・骨折予防や孤立防止の観点から、多感覚知覚、歩行制御訓練、世代間交流などに関する知見を蓄積することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### [ 研究方法 ]

(1) ライフスタイルの時間長により、横断的な相関研究または縦断的な介入研究の形をとった。

(2) 認知機能の指標として、実験心理学的・神経心理学的な行動指標を、脳の状態の指標として、(f)MRIを用いた脳の構造的・機能的データを収集した。

(3) 高齢期の脳・認知機能を理解する前提となる知見の積み上げとして、多感覚知覚、歩行制御、異世代間交流などに関して、健常高齢者と若者、健常高齢者とリスク群高齢者の比較などをおこなった。

(4) 後述の研究成果に示す研究項目を立てて研究を実施した。

### [ 研究を遂行する上で生じた問題点及びその解決方法 ]

今回、脳の白質神経線維の堅牢性(ミエリン化の程度)を調べるDTI(Diffusion Tensor Imaging)に初めて取り組んだが、一次的な解析結果は、仮説「長年スポーツをやっている高齢者はスポーツをしていない高齢者よりも白質堅牢性が高い」を支持するようなものではなかった。一方、このDTIをやり始めてまもなく、通常のDTIはミエリン化の程度を測れていない、とする論文が出てきた(Arshad, Stanley, Raz, 2016, NeuroImage)。DTIは先進的な手法として10年ほど注目を集めてきたが、実際に測りたいものを測っているのか、異議が出てきたことになる。我々としては、解析に多くのマンパワーを要するDTIを追求することは断念し、白質DTIを除く他の脳画像データ(灰白質、機能画像)に集中する方針を取った。

## 4. 研究成果

### (1) スポーツマスターズ研究

長期的な運動スキルの訓練が高齢者の脳・認知機能維持に効果をもつかどうかを調べるために、1つのスポーツ(テニス、野球、ダンスなどのスキルを要するもの)を15年以上続けている運動群とあまり運動していない非運動群の高齢者を対象に、認知機能検査や磁気共鳴画像(MRI)による脳構造の横断的な比較をおこなった(平均年齢71歳、MMSE平均28.9点、運動群のスポーツ訓練総年数の平均は40.0年)。両群で灰白質容積を比較した結果、運動群の方が大きい部位がいくつか見つかると、中でも、頭頂葉内側部の楔前部(Precuneus)の灰白質容積は、運動群においてのみ、スポーツ開始年齢および訓練総年数と正の相関を示した(図1)。楔前部はスポーツに関係した内観や注意の転換、視空間的な処理に深く関与することが知られており

(Naghavi et al., 2015)、加齢とともに萎縮しやすい頭頂葉(Raz et al., 2010)のこの部位が、スポーツを継続することで維持されている可能性が示唆された。ただし両群の認知機能は行動的に差がみられず、もし群間の差が出るとしたら(Tseng et al., 2013) 後期高齢期以降である可能性が示唆された(業績: Yamashita et al., 2021)。

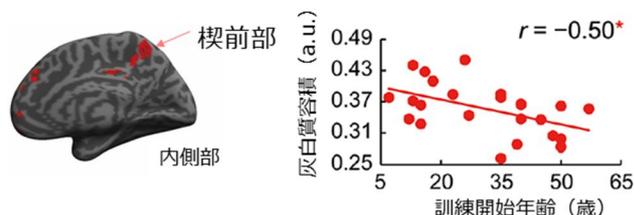


図1. 運動群における楔前部の灰白質容積と訓練開始年齢の関係

### (2)音楽マスタース研究

長期の楽器練習が高齢期の脳・認知機能に及ぼす影響を調べるために、指先を使う楽器(ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、サクソなど)を1つにつき15年以上練習している音楽群の高齢者(音楽マスタース)と、楽器をしていない非音楽群の高齢者を比較した(平均年齢71歳, MMSE平均29.6点, 音楽群の楽器訓練総年数の平均は52.7年)。その結果、行動的な検査では、語流暢性課題とタッピング課題において、音楽群の方が非音楽群よりも優れていた。音楽群は非音楽群に比べて両側小脳に灰白質容積のより大きい部分があり、その容積は現在の練習時間と関連していた。また、小脳のこれらの部位は、非音楽群では年齢とともに萎縮していたが、音楽群では年齢との相関がなかった(図2)。小脳は指の動きのイメージやリズムの知覚、実行機能に関与し(Olivito et al., 2018; Paquette et al., 2017)、加齢による萎縮の影響を受けやすい(Ramanoël et al., 2018)。本研究は、生涯にわたる楽器練習が小脳の加齢による萎縮軽減に役立つ可能性があることを示した(業績: Yamashita et al., 2022)。

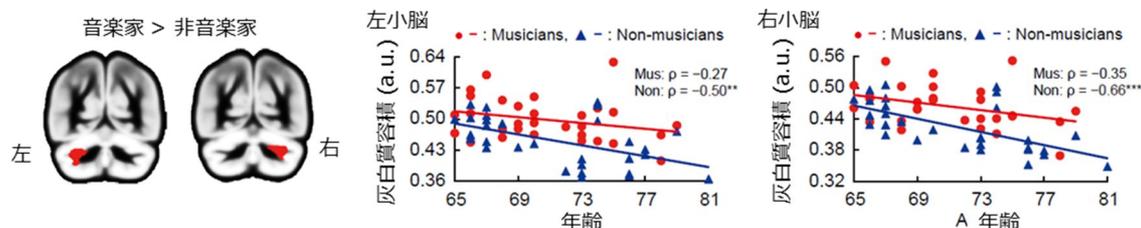


図2. 灰白質容積に群間差のあった小脳部位(脳画像図)およびその容積と年齢との相関(プロット)

### (3)運動介入

短期的な運動介入が高齢者の脳・認知機能に及ぼす影響を調べるために、健康な高齢者への3カ月の介入をランダム化比較試験によりおこなった。東京で実施した介入研究では(上田ら, 2018, 日本心理学会大会) 介入方法(二重課題介入、単一課題介入、待機)と年齢(74歳未満または74歳以上)に着目して検証した結果、行動的な指標においては2つの介入方法で違いはなく、二重課題介入と単一課題介入をこみにした解析で、74歳以上においてのみ介入効果が認められた。脳機能(fMRI)データでは、介入効果は2つの脳部位間の機能結合解析で検出されており、どの部位間であるかによって、機能結合の減少または増大として変化が現れたが、認知機能向上と関連していたのは減少した機能結合のみであった(Soshi, in preparation)。

また、京都で以前おこなった3カ月の運動介入研究の未解析データを解析した結果(平均年齢73.5歳, MMSE平均27.5点) 介入による全般的認知機能の向上、前頭前野における灰白質容積増大、皮質厚増大が確認され、中でも中前頭溝の灰白質容積の増大は、介入群において認知機能の向上と正の相関を示した(図3)。本研究課題の出発点として高齢者における前頭前野の過活動に着目していたことに関しては、すでに以前の研究で前頭前野の過活動が運動介入により緩和されることを報告していた(Nishiguchi et al., 2015)。今回、新たに、課題中の脳活動の指標として部位間の機能結合を解析することにより、前頭前野内の機能結合の減少がみられ、この指標を用いても神経処理効率化として介入効果を示すことができた。一連の結果は、前頭前野が高齢期に高い可塑性を維持していることを示すとともに、前頭前野が他の部位と連動する形で衰えを補っていることを示唆した(業績: Soshi et al., 2021)。

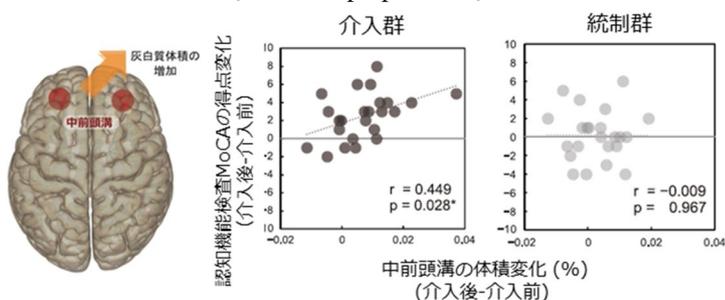


図3. 運動介入による中前頭溝の体積増大およびその増大と認知機能上昇との相関

#### (4)音楽介入

楽器訓練経験のない高齢者に短期的に楽器演奏訓練に取り組んでもらうことで脳・認知機能が向上するかどうかを、ランダム化比較試験により検討した（平均年齢 73 歳、MMSE 平均 28.7 点）。4 か月の鍵盤ハーモニカでの介入の結果、待機していた統制群に比べ、訓練による有意な介入効果が言語記憶（Wechsler Memory Scale-Revised Logical Memory 遅延再生）でみられた。また、ワーキングメモリ課題中の脳活動について、機能的磁気共鳴画像（fMRI）で訓練前後の変化を調べ、関心領域を起点とする機能結合解析をおこなった結果、楽器訓練によって機能結合が減少する結合が 2 対みつかり、そのうちの「左被殻—右上側頭回」の機能結合の変化は、介入群において記憶成績の変化と負の相関を示した（図 4）。このことから、機能結合の減少は、神経処理効率の向上を示すと考えられた（業績：Guo et al., 2020、新聞や Yahoo ニュースで報道された）。

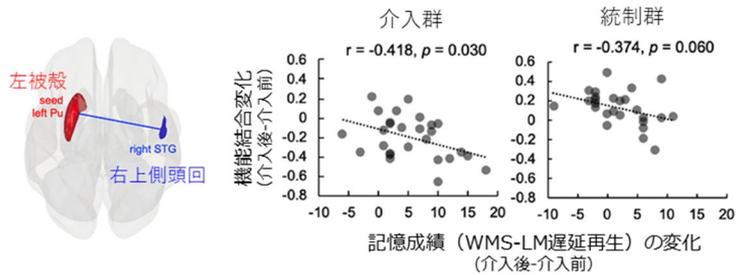


図4. 楽器練習により機能結合が減少した部位およびその変化と記憶成績変化の相関

#### (5)高齢期における加齢進展による脳の過活動のさらなる進行

高齢者においては、課題遂行中の脳活動が若者に比べてその強さや範囲が増大する「過活動」が知られている。過活動は衰えた脳機能で以前と同じことをするための補償的活動とする見方もあるが、それを支持しない立場もあり、論争が続いている。多くの先行研究において、過活動は 60 歳代の高齢者と若者を比較して確認されてきたが、本研究では、75 歳以上の後期高齢者と前期高齢者との比較でも見られるのかを調べた。視覚ワーキングメモリ課題中の脳活動を fMRI で計測した結果、右半球の前頭前野に、後期高齢者で活動が昂進している部位が確認された。今回の結果では、後期高齢者の過活動は課題成績と正の相関があり、補償説を支持する特徴を備えていた。過活動は成績低下を防ぐポジティブな意味と、より若い世代がない活動昂進という老化の意味合いの両方があると思われる（業績：Suzuki et al., 2018）。

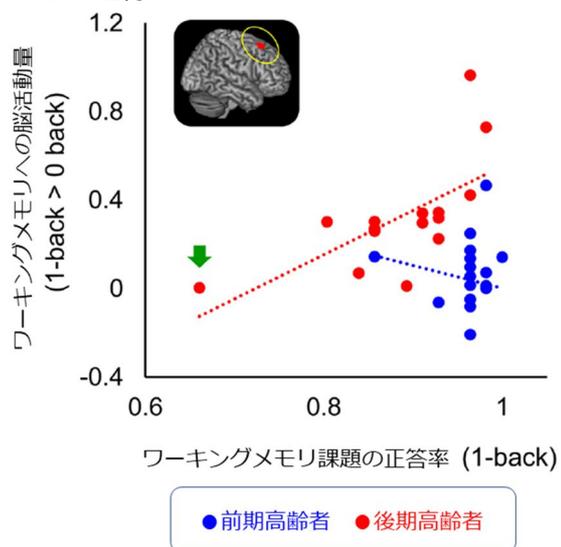


図5. 後期高齢者で脳活動が昂進していた部位およびその活用量と課題成績の相関

#### (6)多感覚統合

高齢者の感覚間相互作用と運動機能との関係を明らかにする実験を進めてきた。歩行 (Timed-Up and Go Test) を指標とした運動機能が低い高齢者は、その機能の高い高齢者や若齢者よりも触覚判断の際に視覚情報を用いやすいことがわかった（業績：Teramoto et al., 2017）。また、高転倒リスク高齢者の多感覚相互作用について身体知覚を対象に調べた結果、高転倒リスク高齢者は、足の身体所有感形成において若齢者や低転倒リスク高齢者よりも視覚情報の影響を受けやすく（業績：Hide et al., 2021）。また、手足の身体位置知覚において視覚情報遮断後もその影響が長時間残存し、状況に合わせて感覚情報間の重みづけを柔軟に切り替えることができなかった（Teramoto, in revision）。いずれも単一感覚機能や注意機能との関連は見られなかった。以上から、高転倒リスク高齢者は身体知覚における多感覚統合システムに課題を抱えている可能性を示唆する。

#### (7)歩行制御

転倒危険性の高い障害物回避場面（狭い隙間を通過）について、高齢者の衝突回避能力の改善を目的としたスクリーン型バーチャルリアリティ（VR）システムを開発した。その結果、スクリーンの前で行う足踏み + 衝突回避経験が、実環境での衝突回避行動にも転移しうることを明らかにした（業績：Suda et al., 2022; Kondo et al., 2021）。一連の実験の結果から、実環境への転移に至るには、単にハードとしての VR の改善だけではなく、フィードバック情報を充実させること（衝突時のリアリティを高めるための振動刺激、並びに各試行で設定した目標を達成した場合に成功のフィードバックを与えること）や、スモールステップの目標設定でモチベーションを維持するといった、認知情報処理に関わる各種条件設定が重要であることがわかった。スクリーン型 VR システムは歩行をせずとも歩行体験ができるという意味で低負担であり、高齢者への応用可能性が高いことが期待される。

#### (8)世代間交流

記憶を含む多くの認知機能は加齢の影響で低下するが、社会的ネットワークや社会的活動などの生活習慣が豊富な高齢者の記憶は、それらの生活習慣があまりない高齢者よりも比較的保たれやすい (Takada et al., 2014)。本研究項目では、世代間交流が記憶とその神経基盤にどのような影響を与えるのかについて、健常若年成人と健常高齢者を対象に検討した。同世代と異世代との交流から学習された記憶の想起に関連する神経メカニズムとその加齢変化を調べる fMRI 研究を実施した。その結果、同世代の人物との交流によって学習された記憶の想起に関する神経メカニズムは、健常若年成人と健常高齢者の間で有意差は認められなかったが、異世代の人物との交流によって学習された記憶の想起に関する神経メカニズムは加齢によって変化しており、他者の処理に参与する上側頭溝後部領域と記憶に関する側頭葉先端部や海馬との間のネットワークが、健常若年成人と比較して健常高齢者において有意に低下していることが認められた (業績: Tsuruha & Tsukiura, 2021)。

#### (9) 視線計測による軽度認知障害の検出

軽度認知障害 (Mild Cognitive Impairment: MCI) は認知症の前駆段階とされ、認知症への移行率は5年で40%と言われるが、活動的なライフスタイルを取ることで正常に戻るケースも少なくないことから、早期発見が強く望まれている。研究代表者らが日常接する高齢の研究参加者の中にも、認知機能検査で MCI が疑われるケースが散見される。視線計測を用いて MCI を検出することができれば、認知症の検査をされているという意識なしに検査をすることができ、心理的負担を減らすことができると考えられる。そこで、顔記憶課題中の参加者の視線を非接触型の赤外線カメラを用いたアイトラッカーで計測し、MCI と年齢マッチした健常高齢者との違いを調べた。その結果、健常者では顔を記憶する際に目に視線を集中させるのに対して、MCI ではそのような集中がなく、目から口まで視線が分散していることがわかった (業績: Kawagoe et al., 2017、新聞報道あり)。

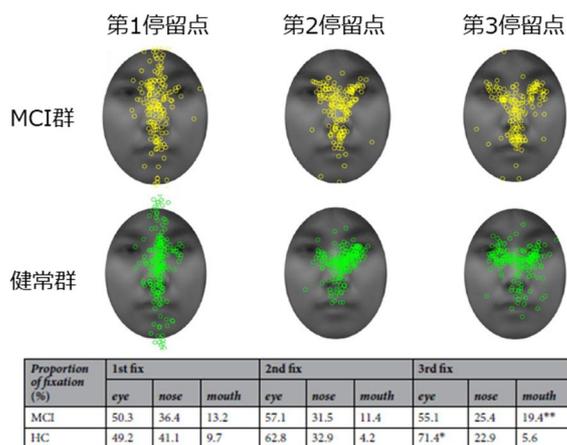


図6. 顔記憶課題中の視線布置の変化  
健常者では第3停留点で目に集中したが、MCI群ではそうした集中がなかった。

#### (10) 総合的知見

近年の加齢認知神経科学の研究で見いだされた高齢期の脳の「過活動」に関していえば、前期高齢者と比較した75歳以上の後期高齢者の課題中の脳活動に過活動がみられた (右前頭前野、図5)。従来は、若者と前期高齢者を比較した「過活動」の報告のみであったが、高齢期に入ってから加齢が補償的過活動を進行させることが示唆された。現在投稿準備中の運動介入研究においても、74歳を境とする2群に分けることで初めて意味のある結果を見出すことができた (Soshi, in preparation)。こうした観点を超高齢社会の日本から発信して行くことが重要である。

一方、数か月の介入が「過活動」を緩和するかという点では、単一部位の脳活動量としては見えにくく、2つの部位間での機能結合 (活動同期レベル) をみることで、運動介入でも、音楽介入でも、機能結合の減少として介入効果が表れた (Soshi et al., 2021; Guo et al., 2020)。この点では、介入の種類によらない一般的な効果として、他の部位を連動させなくてもすむようになる「神経処理効率化」が示唆される。ただ、そうした変化を示す機能結合がどの部位間であるかは、介入の種類による違いがあった。楽器訓練に、加齢によって萎縮しやすい被殻 (putamen) が関わっていることは、今後の研究でも注目すべき点であると思われる。

生涯にわたるスポーツや楽器の訓練は、脳の構造的変化をもたらすことが示された。その部位は、運動では頭頂葉内側部、楽器では小脳と、訓練の種類によって違っていた (図1、図2)。

転倒予防に関しては、多感覚統合におけるリスク群高齢者の視覚依存が明らかとなり、またバーチャルリアリティを用いて歩行中の衝突回避訓練ができることが分かった。孤立防止に関しては、異世代からの情報を受け取る際の高齢者の弱さが示された。

以上のように、高齢者を理解し健康寿命を延伸させるための知見が蓄積された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計113件（うち査読付論文 89件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 51件）

1. 著者名 Hashimoto, M., Suzuki, M., Hotta, M., Nagase, A., Yamamoto, Y., Hirakawa, N., Nagata, Y., Satake, Y., Suehiro, T., Kanemoto, H., Yoshiyama, K., Mori, E., & Ikeda, M.	4. 巻 11
2. 論文標題 The influence of the COVID-19 outbreak on the lifestyle of older patients with dementia or mild cognitive impairment who live alone.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontier in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 570580
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsy.2020.570580. eCollection	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sato, S., Hashimoto, M., Yoshiyama, K., Kanemoto, H., Hotta, M., Azuma, S., Suehiro, T., Kakeda, K., Nakatani, Y., Umeda, S., Fukuhara, R., Takebayashi, M., & Ikeda, M.	4. 巻 13
2. 論文標題 Characteristics of behavioral symptoms in right-sided predominant semantic dementia and their impact on caregiver burden: a cross-sectional study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Alzheimers Research & Therapy	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13195-021-00908-2.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kotegawa, K., Yasumura, A., & Teramoto, W.	4. 巻 399
2. 論文標題 Changes in prefrontal cortical activation during motor imagery of precision gait with age and task difficulty.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioral Brain Research	6. 最初と最後の頁 113064
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.bbr.2020.113046.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kondo, Y., Fukuhara, K., Suda, Y., & Higuchi, T.	4. 巻 92
2. 論文標題 Training older adults with virtual reality use to improve collision-avoidance behavior when walking through an aperture.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.archger.2020.104265.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hide, M., Ito, Y., Kuroda, N., Kanda, M., & Teramoto, W.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Multisensory integration involved in the body perception of community-dwelling older adults.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-81121-x.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Soshi, T., Andersson, M., Kawagoe, T., Nishiguchi, S., Yamada, M., Otsuka, Y., Nakai, R., Abe, N., Aslah, A., Igasaki, T., & Sekiyama, K.	4. 巻 31
2. 論文標題 Prefrontal plasticity after a three-month exercise intervention in older adults relates to enhanced cognitive performance.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cerebral Cortex	6. 最初と最後の頁 4501-4517
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cercor/bhab102.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuruha, E., & Tsukiura, T.	4. 巻 15
2. 論文標題 Effects of aging on the neural mechanisms underlying the recollection of memories encoded by social interactions with persons in the same and different age groups.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Behavioral Neuroscience	6. 最初と最後の頁 743064
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnbeh.2021.743064	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita, M., Suzuki, M., Kawagoe, T., Asano, K., Futada, M., Nakai, R., Abe, N., & Sekiyama, K.	4. 巻 15
2. 論文標題 Impact of early-commenced and continued sports training on the precuneus in older athletes.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 766935
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2021.766935.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kotegawa, K., & Teramoto, W.	4. 巻 766
2. 論文標題 Association of executive function capacity with gait motor imagery ability and PFC activity: An fNIRS study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuroscience Letters	6. 最初と最後の頁 136350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2021.136350	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita, M., Ohsawa, C., Suzuki, M., Guo, X., Sadakata, M., Otsuka, Y., Asano, K., Abe, N., & Sekiyama, K.	4. 巻 15
2. 論文標題 Neural advantages of older musicians involve the cerebellum: Implications for healthy aging through lifelong musical instrument training.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 784026
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2021.784026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suda, Y., Fukuhara, K., Sato, K., Higuchi, T.	4. 巻 4
2. 論文標題 Improved walking through an aperture in a virtual environment transfers to a real environment: Introduction of enriched feedback and gradual increase in task difficulty.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Sports and Active Living	6. 最初と最後の頁 844436
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fspor.2022.844436.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Muroi, D., Saito, Y., Koyake, A., Higo, F., Numaguchi, T., & Higuchi, T.	4. 巻 81
2. 論文標題 Walking through an aperture while penetrating from the paretic side improves safety managing the paretic side for individuals with stroke who had previous falls.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Human Movement Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.humov.2021.102906.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 積山 薫, 郭 霞	4. 巻 -
2. 論文標題 楽器練習が認知機能に及ぼす影響 介入研究が示すこと.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 音楽知覚認知研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sekiyama, K, Hisanaga, S, Mugitani, R	4. 巻 in press
2. 論文標題 Selective attention to the mouth of a talker in Japanese-learning infants and toddlers: Its relationship with vocabulary and compensation for noise	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cortex	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cortex.2021.03.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Guo, X., Yamashita, M., Suzuki, M., Ohsawa, C., Asano, K., Abe, N., Soshi, T., & Sekiyama, K.	4. 巻 42(5)
2. 論文標題 Musical instrument training program improves verbal memory and neural efficiency in novice older adults	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Brain Mapping	6. 最初と最後の頁 1359-1375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hbm.25298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaoru Sekiyama	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 Influence of language backgrounds on audiovisual speech perception across the lifespan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acoustical and Science Technology	6. 最初と最後の頁 37-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1250/ast.41.37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 積山薫, 鈴木麻希	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 加齢による認知脳機能の個人差拡大とその背景要因 研究方法への省察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 基礎心理学研究	6. 最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14947/psychono.38.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teramoto, W., Kawano, S., Mori, S., Sekiyama, K.	4. 巻 237
2. 論文標題 Word scanning in native and non-native languages: insights into reading with declined accommodation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 2411-2421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-019-05588-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小手川耕平, 寺本渉, 積山薫	4. 巻 17
2. 論文標題 高齢者のもつ運動イメージ: 質問紙調査法JMIQ-Rとポインティング課題の比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知心理学研究	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5265/jcogpsy.17.27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura T, Higuchi T, Kikumoto T, Takeda T, Tashiro H, Hoshi F	4. 巻 51
2. 論文標題 Slower reorientation of trunk for reactive turning while walking in hemiparesis stroke patients.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Motor Behavior	6. 最初と最後の頁 640-646
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00222895.2018.1547894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muroi D, Ohtera S, Kataoka Y, Banno M, Tsujimoto Y, Tsujimoto H, Higuchi T,	4. 巻 9
2. 論文標題 Obstacle avoidance training in individuals with stroke: a systematic review and meta-analysis.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e028873.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-028873	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kondo Y, Fukuhara K, Suda Y, Higuchi T	4. 巻 92
2. 論文標題 Training older adults with virtual reality use to improve collision-avoidance behavior when walking through an aperture	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2020.104265, 2021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai R, Fujiwara Y, Suzuki H, Ogawa S, Higuchi T, Imanaka K.	4. 巻 Series B
2. 論文標題 Changes in self-estimated step-over ability among older adults: A 3-year follow-up study. Journal of Gerontology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychological Sciences	6. 最初と最後の頁 gbaa219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/geronb/gbaa219	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口貴広・福原和伸・中本浩揮	4. 巻 38
2. 論文標題 スポーツ選手の視覚特性：知覚・認知・運動系で“見る”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clin Neurosci (特集「スポーツの神経科学」)	6. 最初と最後の頁 720-723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福原和伸・中本浩揮・樋口貴広	4. 巻 70
2. 論文標題 視覚運動制御研究におけるバーチャルリアリティ技術の活用.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 体育の科学	6. 最初と最後の頁 184-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakuta S, Hashimoto M, Ikeda M, Koyama A, Takasaki A, Hotta M, Fukuhara R, Ishikawa T, Yuki S, Miyagawa Y, Hidaka Y, Kaneda K, Takebayashi M.	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Clinical features of behavioral symptoms in patients with semantic dementia: Does semantic dementia cause autistic traits?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0247184	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikezaki H, Hashimoto M, Ishikawa T, Fukuhara R, Tanaka H, Yuki S, Kuribayashi K, Hotta M, Koyama A, Ikeda M, Takebayashi M	4. 巻 35(8)
2. 論文標題 Relationship between executive dysfunction and neuropsychiatric symptoms and impaired instrumental activities of daily living among patients with very mild Alzheimer's disease.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 877-887
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.5308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tabira T, Hotta M, Murata M, Yoshiura K, Han G, Ishikawa T, Koyama A, Ogawa N, Maruta M, Ikeda Y, Mori T, Yoshida T, Hashimoto M, Ikeda M.	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Age-Related Changes in Instrumental and Basic Activities of Daily Living Impairment in Older Adults with Very Mild Alzheimer's Disease.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Dement Geriatr Cogn Disord Extra	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000506281	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hatada H, Hashimoto M, Shiraishi S, Ishikawa T, Fukuhara R, Yuki S, Tanaka H, Miyagawa Y, Kitajima M, Uetani H, Tsunoda N, Koyama A, Ikeda M.	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 Cerebral Microbleeds are Associated with Cerebral Hypoperfusion in Patients with Alzheimer's Disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Alzheimers Dis.	6. 最初と最後の頁 273-280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/JAD-190272	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中響、橋本衛、竹林実、池田学	4. 巻 31(10)
2. 論文標題 アルツハイマー病におけるShort-Memory Questionnaire(SMQ)の有用性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 1089-1098
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高崎昭博、橋本衛、福原竜治、石川智久、小山明日香、宮川雄介、佐久田静、本堀伸、一美奈緒子、堀田牧、津野田尚子、兼田桂一郎、品川俊一郎、池田学、竹林実	4. 巻 34(3)
2. 論文標題 意味性認知症患者の自動車運転中止をめぐる状況と対応に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Dementia Japan	6. 最初と最後の頁 295-304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 35(12)
2. 論文標題 認知症における不安とその対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1373-1380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛、一美奈緒子、津野田尚子	4. 巻 31(4)
2. 論文標題 初期認知症者の心理状態を重視したBPSDの予防と対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 329-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久田静、橋本衛	4. 巻 36(2)
2. 論文標題 意味性認知症と発達障害	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神経心理学	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石丸大貴、橋本衛	4. 巻 49(12)
2. 論文標題 物盗られ妄想とその対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 1901-1907
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部宏幸、橋本衛	4. 巻 36(4)
2. 論文標題 意味記憶と抽象的態度	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神経心理学	6. 最初と最後の頁 197-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久田静、橋本衛	4. 巻 36(4)
2. 論文標題 神経発達症と意味記憶障害	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神経心理学	6. 最初と最後の頁 189-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 30 (2)
2. 論文標題 認知症患者の妄想の発現に関わる要因について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本生物学的精神医学会誌	6. 最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto, M., Suzuki, M., Hotta, M., Nagase, A., Yamamoto, Y., Hirakawa, N., Satake, Y., Nagata, Y., Suehiro, T., Kanemoto, H., Yoshiyama, K., Mori, E., & Ikeda, M.	4. 巻 11
2. 論文標題 The influence of the COVID-19 outbreak on the lifestyle of older patients with dementia or mild cognitive impairment who live alone	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2020.570580	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, M., Hotta, M., Nagase, A., Yamamoto, Y., Hirakawa, N., Satake, Y., Nagata, Y., Suehiro, T., Kanemoto, H., Yoshiyama, K., Mori, E., Hashimoto, M., & Ikeda, M	4. 巻 10
2. 論文標題 The behavioral pattern of patients with frontotemporal dementia during the COVID-19 pandemic.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S104161022000109X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hide, M., Ito, Y., Kuroda, N., Kanda, M., Teramoto	4. 巻 11
2. 論文標題 Multisensory integration involved in the body perception of community-dwelling older adults	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-81121-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kotegawa, K., Yasumura, A., and Teramoto, W	4. 巻 399
2. 論文標題 Changes in prefrontal cortical activation during motor imagery of precision gait with age and task difficulty	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioral Brain Research	6. 最初と最後の頁 113064
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbr.2020.113046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, N. & Teramoto, W	4. 巻 239(1)
2. 論文標題 Expansion of space for visuotactile interaction during visually-induced self-motion	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 257-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-020-05966-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本 渉	4. 巻 39
2. 論文標題 高齢者の身体情報処理特性に基づくバーチャル・リアリティ転倒予防プログラム開発に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 基礎心理学研究	6. 最初と最後の頁 80-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14947/psychono.39.13	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kotegawa, K., Yasumura, A., and Teramoto, W	4. 巻 238(1)
2. 論文標題 Activity in the prefrontal cortex during motor imagery of precision gait: An fNIRS study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 221-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-019-05706-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akbar IA, Igasaki T	4. 巻 10(6)
2. 論文標題 Drowsiness estimation using electroencephalogram and recurrent support vector regression	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Information	6. 最初と最後の頁 217-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/info10060217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Y, Nishio N, Abe Y, Ogawa H, Taguchi R, Otobe Y, Koyama S, Suzuki M, Kikuchi T, Masuda H, Kusumi H, Yamada M	4. 巻 20
2. 論文標題 Relationship between physical activity levels during rehabilitation hospitalization and life-space mobility following discharge in stroke survivors: a multicenter prospective study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Top Stroke Rehabil	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10749357.2020.1834276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wada O, Yamada M, Kamitani T, Mizuno K, Kurita N	4. 巻 40(4)
2. 論文標題 The associations of phase angle with the structural severity and quadriceps strength among patients with hip osteoarthritis: the SPSS-OK study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clin Rheumatol	6. 最初と最後の頁 1539-1546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10067-020-05419-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koyama S, Komatsu T, Ishiyama D, Suzuki M, Kimura Y, Otobe Y, Taguchi R, Shino S, Yamada M, Yamatoku M	4. 巻 92
2. 論文標題 Impact of physical, cognitive, and psychological functions on incident homebound status after discharge among hospitalized older patients: A clinical-based prospective study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Arch Gerontol Geriatr	6. 最初と最後の頁 104258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2020.104258	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uemura K, Yamada M, Kuzuya M	4. 巻 27
2. 論文標題 Effects of Active Learning Education on Arterial Stiffness of Older Adults with Low Health Literacy: A Randomized Controlled Trial	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.58354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uemura K, Yamada M, Okamoto H	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 The Effectiveness of an Active Learning Program in Promoting a Healthy Lifestyle among Older Adults with Low Health Literacy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 A Randomized Controlled Trial. Gerontology	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000511357	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Y, Ohji S, Nishio N, Abe Y, Ogawa H, Taguchi R, Otobe Y, Yamada M	4. 巻 7
2. 論文標題 The impact of wheelchair propulsion based physical activity on functional recovery in stroke rehabilitation: a multicenter observational study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Disability and Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09638288.2020.1821249	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki M, Kimura Y, Otobe Y, Kikuchi T, Masuda H, Taguchi R, Tanaka S, Narita Y, Shino S, Kusumi H, Yamada M	4. 巻 66(6)
2. 論文標題 Relationship between Sarcopenia and Swallowing Capacity in Community-Dwelling Older Women	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gerontology	6. 最初と最後の頁 549-552
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000511359	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada M, Kimura Y, Ishiyama D, Otobe Y, Suzuki M, Koyama S, Kikuchi T, Kusumi H, Arai H	4. 巻 24(9)
2. 論文標題 Letter to the Editor: Recovery of Physical Activity among Older Japanese Adults since the First Wave of the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Nutr Health Aging	6. 最初と最後の頁 1036-1037
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12603-020-1466-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki T, Nishita Y, Jeong S, Shimada H, Otsuka R, Kondo K, Kim H, Fujiwara Y, Awata S, Kitamura A, Obuchi S, Iijima K, Yoshimura N, Watanabe S, Yamada M, Toba K, Makizako H	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 Are Japanese Older Adults Rejuvenating? Changes in Health-Related Measures Among Older Community Dwellers in the Last Decade	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Rejuvenation Res	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/rej.2019.2291	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada M, Kimura Y, Ishiyama D, Otobe Y, Suzuki M, Koyama S, Kikuchi T, Kusumi H, Arai H	4. 巻 24(9)
2. 論文標題 Effect of the COVID-19 Epidemic on Physical Activity in Community-Dwelling Older Adults in Japan: A Cross-Sectional Online Survey. J Nutr Health Aging	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Nutr Health Aging	6. 最初と最後の頁 948-950
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12603-020-1424-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uemura K, Kamitani T, Yamada M, Okamoto H	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 Longitudinal Effects of Active Learning Education on Lifestyle Behavior and Physical Function in Older Adults	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 459-463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2020.05.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Y, Yamada Y, Yoshida T, Yokoyama K, Miyake M, Yamagata E, Yamada M, Yoshinaka Y, Kimura M	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Comprehensive geriatric intervention in community-dwelling older adults: A cluster-randomized controlled trial	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Cachexia Sarcopenia Muscle	6. 最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jcsm.12504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chang, Y., Mori, E., Suzuki, M., Ikeda, M., Huan, C., Lee, J., Chang, W., & Chang, C.	4. 巻 21
2. 論文標題 APOE-MS4A genetic interactions are associated with executive dysfunction and network abnormality in clinically mild Alzheimer's disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NeuroImage: Clinical	6. 最初と最後の頁 101621
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.nicl.2018.101621.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Y, Ohji S, Ishiyama D, Nishio N, Otobe Y, Suzuki M, Ogawa H, Ichikawa T, Taguchi R, Shino S, Tanaka S, Yamada M	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 Factors associated with functional recovery in Japanese patients with convalescent stroke stratified by age: a multicenter observational study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Rehabil Res	6. 最初と最後の頁 249-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MRR.0000000000000359	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小手川 耕平, 寺本 渉, 積山 薫	4. 巻 17, 1
2. 論文標題 高齢者のもつ運動イメージ: 質問紙調査法JMIQ-Rとポインティング課題の比較.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知心理学研究	6. 最初と最後の頁 27-36.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5265/jcogpsy.17.27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki M, Kawagoe T, Nishiguchi S, Abe N, Otsuka Y, Nakai R, Asano K, Yamada M, Yoshikawa S, Sekiyama K.	4. 巻 10: 358
2. 論文標題 Neural correlates of working memory maintenance in advanced aging: Evidence from fMRI.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Aging Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnagi.2018.00358	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uemura K, Yamada M, Okamoto H.	4. 巻 66(9)
2. 論文標題 Effects of active learning on health literacy and behavior in older adults: a randomized controlled trial.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of American Geriatrics Society	6. 最初と最後の頁 1721-1729
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgs.15458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada M, Arai H	4. 巻 19(12)
2. 論文標題 Social frailty predicts incident disability and mortality among community-dwelling Japanese older adults.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 1099-1103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2018.09.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teramoto W.	4. 巻 8: 5432
2. 論文標題 A behavioral approach to shared mapping of peripersonal space between oneself and others.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-23815-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tateishi M, Kitajima M, Hirai T, Yoneda T, Hashimoto M, Kurehana N, Uetani H, Fukuhara R, Azuma M, Yamashita Y.	4. 巻 17(4)
2. 論文標題 Differentiating between Alzheimer disease patients and controls with phase-difference-enhanced imaging at 3T: a feasibility study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Magnetic Resonance in Medical Science	6. 最初と最後の頁 283-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2463/mrms.mp.2017-0134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugita Y, Hidaka S, Teramoto W.	4. 巻 8: 13396
2. 論文標題 Visual percepts modify iconic memory in humans.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-31601-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsushita M, Yatabe Y, Hashimoto M (全10名)	4. 巻 13(5): e0197468
2. 論文標題 Are saving appearance responses typical communication patterns in Alzheimer's disease?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0197468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koyama A, Hashimoto M, Ikeda M (全10名)	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Caregiver burden in semantic dementia with right- and left-sided predominant cerebral atrophy and in behavioral variant frontotemporal dementia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dementia and Cognitive Disorders EXTRA	6. 最初と最後の頁 128-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000487851	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishiyama D, Yamada M. (全8名)	4. 巻 9
2. 論文標題 Factors associated with low physical performance among older inpatients.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24816/jcgg.2018.v9i1.04	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Igasaki T, Yamashita K, Ushijima T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Force-temporal characteristics of EEG-EMG coherence during isometric contraction of the tibialis anterior muscle.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 11th Biomedical Engineering International Conference (BMEiCON)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/BMEiCON.2018.8609919	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Igasaki T, Takemoto J, Sakamoto K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Relationship between kinesthetic/visual motor imagery difficulty and event-related desynchronization/synchronization.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 40th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/EMBC.2018.8512673.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teramoto, W., Kawano, S., Mori, S., & Sekiyama, K.	4. 巻 237(9)
2. 論文標題 Word scanning in native and non-native languages: insights into reading with declined accommodation.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 2411-2421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-019-05588-x.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada M, Kimura Y, Ishiyama D, Nishio N, Otohe Y. (全14名)	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 Phase angle is a useful indicator for muscle function in older adults.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Nutrition, Health and Aging	6. 最初と最後の頁 221-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12603-018-1151-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高崎昭博, 橋本衛	4. 巻 29(9)
2. 論文標題 認知症の認知機能検査について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 907-914
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口貴広	4. 巻 58
2. 論文標題 スポーツ選手における視覚運動制御	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Monthly Book OCULISTA	6. 最初と最後の頁 63-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 34(3)
2. 論文標題 認知症と高次脳機能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 355-358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 33(10)
2. 論文標題 認知症診療の基本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1153-1159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口貴広	4. 巻 10
2. 論文標題 バランスの制御：視覚の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理学療法の科学と研究	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawagoe T, Matsushita M, Hashimoto M, Ikeda M, Sekiyama K.	4. 巻 7: 14344
2. 論文標題 Face-specific memory deficits and changes in eye scanning patterns among patients with amnesic mild cognitive impairment.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-14585-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Guo X, Ohsawa C, Suzuki A, Sekiyama K.	4. 巻 8: 02303
2. 論文標題 Improved Digit Span in Children after a 6-Week Intervention of Playing a Musical Instrument: An Exploratory Randomized Controlled Trial.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2017.02303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsushita M, Yatabe Y, Koyama A, Ueno Y, Ijichi D, Ikezaki H, Hashimoto M, Furukawa N, Ikeda M.	4. 巻 17(6)
2. 論文標題 Why do people with dementia pretend to know the correct answer? A qualitative study on the behaviour of toritsukuroi to keep up appearances.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 377-381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muroi D, Higuchi T	4. 巻 235
2. 論文標題 Walking through an aperture with visual information obtained at a distance.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 219-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-016-4781-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagai K, Yamada M, Komatsu M, Tamaki A, Kanai M, Miyamoto T, Tsukagoshi R, Tsuboyama T.	4. 巻 17(10)
2. 論文標題 Near falls predict substantial falls in older adults: A prospective cohort study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1477-1480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.12898	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto K, Takemoto J, Igasaki T	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 Classification of kinesthetic/visual motor imagery based on event-related desynchronization/synchronization using support vector machine.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Journal of Japan Biomagnetism and Bioelectromagnetics Society	6. 最初と最後の頁 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teramoto W, Honda K, Furuta K, Sekiyama K.	4. 巻 235(8)
2. 論文標題 Visuotactile interaction even in far sagittal space in older adults with decreased gait and balance functions.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 2391-2405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-017-4975-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada M, Arai H.	4. 巻 14(5). pii: E531
2. 論文標題 Self-Management Group Exercise Extends Healthy Life Expectancy in Frail Community-Dwelling Older Adults.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph14050531	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura Y, Wakabayashi H, Yamada M, Kim H, Harada A, Arai H	4. 巻 18(6)
2. 論文標題 Interventions for Treating Sarcopenia: A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Studies.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 553.e1-553.e16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2017.03.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teraoka R, Watanabe O, Teramoto W	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 An ERP Study on Sound-contingent Visual Motion Perception	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Interdisciplinary Information Sciences	6. 最初と最後の頁 175-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4036/iis.2017.S.03	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 35
2. 論文標題 認知症の注意障害	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Clinical Neuroscience別冊	6. 最初と最後の頁 992-996
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口貴広	4. 巻 51(5)
2. 論文標題 歩行の安全性に関わる心理機構	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 理学療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 397-403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisanaga Satoko, Sekiyama Kaoru, Igasaki Tomohiko, Murayama Nobuki	4. 巻 6
2. 論文標題 Language/Culture Modulates Brain and Gaze Processes in Audiovisual Speech Perception	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep35265	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinozaki Jun, Hiroe Nobuo, Sato Masa-aki, Nagamine Takashi, Sekiyama Kaoru	4. 巻 6
2. 論文標題 Impact of language on functional connectivity for audiovisual speech integration	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep31388	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Meng Shuang, Oi Misato, Sekiyama Kaoru, Saito Hirofumi	4. 巻 627
2. 論文標題 The neural mechanism of biomechanical constraints in the hand laterality judgment task: A near-infrared spectroscopy study	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Neuroscience Letters	6. 最初と最後の頁 211 ~ 215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2016.05.069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muroi Daisuke, Higuchi Takahiro	4. 巻 235
2. 論文標題 Walking through an aperture with visual information obtained at a distance	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 219 ~ 230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-016-4781-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuda Masaaki, Stins John F., Higuchi Takahiro	4. 巻 11
2. 論文標題 Effect of Constrained Arm Posture on the Processing of Action Verbs	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2017.00057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawasaki Tsubasa, Yasuda Kazuhiro, Fukuhara Kazunobu, Higuchi Takahiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Relationship between Mental Rotation of Body Parts and Postural Stability during Quiet Stance	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Motor Behavior	6. 最初と最後の頁 357-364
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jirspa-2014-0001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Rui, Higuchi Takahiro	4. 巻 7
2. 論文標題 Behavioral Advantages of the First-Person Perspective Model for Imitation	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2016.00701	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teramoto Wataru, Honda Keito, Furuta Kento, Sekiyama Kaoru	4. 巻 235
2. 論文標題 Visuotactile interaction even in far sagittal space in older adults with decreased gait and balance functions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 2391 ~ 2405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-017-4975-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teraoka Ryo, Teramoto Wataru	4. 巻 235
2. 論文標題 Touch-contingent visual motion perception: tactile events drive visual motion perception	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 903 ~ 912
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-016-4850-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉良和真, 寺本渉	4. 巻 116
2. 論文標題 自己と他者との身体近傍空間の共有	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術報告	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura Yoshihiro, Wakabayashi Hidetaka, Yamada Minoru, Kim Hunkyung, Harada Atsushi, Arai Hidenori	4. 巻 18
2. 論文標題 Interventions for Treating Sarcopenia: A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Studies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Am Med Dir Assoc	6. 最初と最後の頁 553.e1 ~ 553.e16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2017.03.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sewo Sampaio Priscila Yukari, Sampaio Ricardo Aurelio Carvalho, Yamada Minoru, Arai Hidenori	4. 巻 16
2. 論文標題 Systematic review of the Kihon Checklist: Is it a reliable assessment of frailty?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 893 ~ 902
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.12833	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 阿部修士	4. 巻 27
2. 論文標題 アルツハイマー病における記憶錯誤	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 840-845
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sahroni Alvin, Igasaki Tomohiko, Murayama Nobuki, Yudiyanta .	4. 巻 4
2. 論文標題 Sleep Spindle Analysis on Typically Developing and Autistic Children During Sedation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neuroscience and Biomedical Engineering	6. 最初と最後の頁 202 ~ 208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/2213385204666160809124554	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Polivannyi Filipp, Igasaki Tomohiko, Murayama Nobuki, Neshige Ryuji	4. 巻 4
2. 論文標題 Wavelet Transform Based Algorithm for Automatic Detection of Patient- Specific Single Spike- and-Wave Discharges in Simulated Real-Time Conditions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neuroscience and Biomedical Engineering	6. 最初と最後の頁 263 ~ 272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/2213385204666160923123909	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶽本隼也, 坂本勝哉, 伊賀崎伴彦	4. 巻 116(435)
2. 論文標題 脳波による筋感覚/視覚的運動イメージと運動実行/観察の差異の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6. 最初と最後の頁 35 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazui Hiroaki, Yoshiyama Kenji, Kanemoto Hideki, Suzuki Yukiko, Sato Shunsuke, Hashimoto Mamoru, et al.	4. 巻 11
2. 論文標題 Differences of Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia in Disease Severity in Four Major Dementias	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0161092
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0161092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koyama Asuka, Matsushita Masateru, Hashimoto Mamoru, Fujise Noboru, Ishikawa Tomohisa, Tanaka Hibiki, Hatada Yutaka, Miyagawa Yusuke, Hotta Maki, Ikeda Manabu	4. 巻 17
2. 論文標題 Mental health among younger and older caregivers of dementia patients	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 108 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12200	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koyama Asuka, Hashimoto Mamoru, Tanaka Hibiki, Fujise Noboru, Matsushita Masateru, Miyagawa Yusuke, Hatada Yutaka, Fukuhara Ryuji, Hasegawa Noriko, Todani Shuji, Matsukuma Kengo, Kawano Michio, Ikeda Manabu	4. 巻 11
2. 論文標題 Malnutrition in Alzheimer 's Disease, Dementia with Lewy Bodies, and Frontotemporal Lobar Degeneration: Comparison Using Serum Albumin, Total Protein, and Hemoglobin Level	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0157053
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0157053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 27
2. 論文標題 注意障害	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛、池田学	4. 巻 71
2. 論文標題 認知症の診断基準	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 最新醫學	6. 最初と最後の頁 570-576
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本衛	4. 巻 6
2. 論文標題 レビー小体型認知症の薬物療法	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 認知症の最新医療	6. 最初と最後の頁 123-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計73件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 30件)

1. 発表者名 Soshi, T., Andersson, M., Kawagoe, T., Nishiguchi, S., Yamada, M., Otsuka, Y., Nakai, R., Abe, N., Aslah, A., Igasaki, T., Nyberg, L., & Sekiyama, K.
2. 発表標題 Neural plasticity with and without short-term exercise-intervention in healthy elderly people.
3. 学会等名 26th Annual Meeting of the Organization of Human Brain Mapping
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下 雅俊、鈴木 麻希、浅野 孝平、中井 隆介、阿部 修士、積山 薫
2. 発表標題 長年の運動経験が高齢期の脳にもたらす影響：脳構造解析による横断比較
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会オンライン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口 貴広
2. 発表標題 高齢者における 移動行動の知覚運動制御：認知科学 × VR の貢献
3. 学会等名 第26会日本VR学会シンポジウム「身体運動 × VR × 知覚認知科学」話題提供 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Guo, X., Yamashita, M., Suzuki, M., Ohsawa, C., Asano, K., Abe, N., Soshi, T., & Sekiyama, K.
2. 発表標題 Effects of Musical Instrument Training Program on Verbal Memory and Neural Efficiency in the Elderly
3. 学会等名 26th Annual Meeting of the Organization of Human Brain Mapping (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 郭霞, 山下雅俊, 鈴木麻希, 大澤智恵, 浅野孝平, 阿部修士, 積山薫
2. 発表標題 高齢者の認知・脳機能に及ぼす楽器練習の効果
3. 学会等名 第80回日本九州心理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Guo, X., Yamashita, M., Suzuki, M., Ohsawa, C., Asano, K., Abe, N., & Sekiyama, K.
2. 発表標題 Musical Instrument Practice Program Improves Verbal Memory and Neural Efficiency in Novice Older Adults
3. 学会等名 49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郭霞, 山下雅俊, 鈴木麻希, 大澤智恵, 浅野孝平, 阿部修士, 積山薫.
2. 発表標題 楽器練習介入が高齢者の神経処理効率に及ぼす影響
3. 学会等名 第83回日本心理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下 雅俊, 大澤 智恵, 鈴木 麻希, 郭 霞, 貞方 マキ子, 大塚 結喜, 浅野 孝平, 阿部 修士, 積山 薫
2. 発表標題 長期の楽器訓練経験が高齢期の脳にもたらす影響: 脳構造と機能結合解析による横断比較
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 積山 薫
2. 発表標題 ライフスタイルと高齢期の脳の働き: 運動や楽器演奏活動の影響
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公開シンポジウム企画
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Higuchi T, Okada R, Watanabe R, Goto T, Hakamata T, Hiyoshi R, Yonemoto R, Imura A
2. 発表標題 Prevention of cautious strategy in obstacle-avoidance situations in older adults: The effect of spatial constraints on collision-avoidance behavior
3. 学会等名 International Society for Posture and Gait Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimizu K, Kihara Y, Iwata K, Higuchi T, Furuna T
2. 発表標題 Comparative characteristics of obstacle avoidance strategy in young and older adults in various walking conditions.
3. 学会等名 International Society for Posture and Gait Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樋口貴広
2. 発表標題 知覚・認知に根ざした運動支援：予期に着目して
3. 学会等名 112回理学療法科学学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樋口貴広
2. 発表標題 知覚に根ざした運動制御・学習の考え方
3. 学会等名 第25回日本基礎理学療法学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樋口貴広
2. 発表標題 歩行と転倒予防の再考：視知覚の視点から
3. 学会等名 第39回東京都理学療法学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本衛
2. 発表標題 BPSDとその責任病巣について
3. 学会等名 第35回日本老年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本衛
2. 発表標題 初期認知症患者の心理状態を考慮したBPSDの予防と対応の試み
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本衛、福原竜治、津野田尚子、竹林実
2. 発表標題 アルツハイマー病患者における誤認妄想の神経基盤について
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maki Suzuki
2. 発表標題 Changes in brain activity with healthy aging: Evidence from functional neuroimaging studies
3. 学会等名 The 21st Zeelandia Symposium on Behavioral Neuroscience (ZSBN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺本渉
2. 発表標題 基礎心理学に基づくVR構築 - 高齢者の身体知覚に基づくVR転倒予防プログラム開発に向けて
3. 学会等名 日本基礎心理学会シンポジウム「基礎心理学とバーチャルリアリティ」, 日本基礎心理学会第38回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Soshi T, Andersson M, Kawagoe T, Nishiguchi S, Yamada M, Otsuka Y, Nakai R, Abe N, Aslah A, Igasaki T, Nyberg L, Sekiyama K.
2. 発表標題 Neural plasticity with and without short-term exercise-intervention in healthy elderly people.
3. 学会等名 26th Annual Meeting of the Organization of Human Brain Mapping, online (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Igasaki T, Shibuta A, Sakamoto K
2. 発表標題 Evaluation of kinesthetic/visual motor imagery of dorsiflexion of the right ankle joint via event-related desynchronization/synchronization
3. 学会等名 Proc. Int. Biomed. Instr. Tech. Conf. IBITeC (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Igasaki T, Hiramatsu S, Yanagihara D, Baba Y
2. 発表標題 Emotion evaluation during working on a puzzle by spatiotemporal pattern of band power of electroencephalogram
3. 学会等名 Proc. Annual Int. Conf. IEEE EMBC (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Adha MS, Igasaki T
2. 発表標題 Concurrent model for three negative emotions using heart rate variability in a driving simulator environment
3. 学会等名 Proc. Annual Int. Conf. IEEE EMBC (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sahroni A, Igasaki T
2. 発表標題 Analysis of gastric myoelectrical and brain waves activity interaction during pre and postprandial
3. 学会等名 Proc. IEEE-EMBS Conf. Biomed. Eng. Sci. IECBES (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Abd Aziz AAB, Sekiyama K, Igasaki T.
2. 発表標題 Relationship between prefrontal cortex and cognitive/motor performance in elderly by MRI-based volumetric analysis.
3. 学会等名 The 13th International Student Conference on Applied Science and Technology (ICAST), De La Salle University, Philippines (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sekiyama K.
2. 発表標題 Influence of language backgrounds on audiovisual speech perception across the lifespan.
3. 学会等名 Tohoku Universal Acoustical Communication, Sendai, Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Teramoto W, Hide M.
2. 発表標題 Rubber hand/foot illusion in older adults.
3. 学会等名 International Multisensory Research Forum, Chestnut Residence and Conference Centre, University of Toronto, Toronto, Canada (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sekiyama, K.
2. 発表標題 Neuroprotection and physical/motor practice in healthy aging.
3. 学会等名 International Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM) Japanese Chapter, Nagoy University (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神田将寿, 寺本涉
2. 発表標題 VRを用いた疑似的自己移動を伴うゲームが高齢者の認知機能に及ぼす影響
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秀美保, 寺本涉
2. 発表標題 高齢者の自己身体知覚: ラバーハンド/フット錯覚を用いた検討
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小手川耕平, 寺本涉, 積山薫
2. 発表標題 高齢者の運動イメージ評価におけるJMIQ-Rの妥当性
3. 学会等名 第52回日本作業療法学会, 名古屋国際会議場
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 積山 薫
2. 発表標題 ライフスタイルと高齢期の脳の働き (シンポジウム企画)
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木麻希
2. 発表標題 運動イメージの加齢変化と運動経験の影響: 脳・行動指標からの検討
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター (シンポジウムでの話題提供: ライフスタイルと高齢期の脳の働き)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Abd Aziz AAB, Sekiyama K, Igasaki T.
2. 発表標題 A Relationship between Volume of Prefrontal Cortex and Cognitive/Mobility Performance in Elderly.
3. 学会等名 第71回電気・情報関係学会九州支部連合大会, 大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下賢斗, 牛島武, 伊賀崎伴彦
2. 発表標題 運動強度と時間経過に伴う 下肢等尺性収縮運動時の脳-筋同期性に関する基礎的研究
3. 学会等名 第71回電気・情報関係学会九州支部連合大会, 大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神田将寿, 寺本涉
2. 発表標題 バーチャルリアリティを用いた座位での擬似歩行運動介入の開発と検証
3. 学会等名 第5回日本予防理学療法学会, 北九州国際会議場
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田尚輝, 寺本涉
2. 発表標題 自己運動速度の違いにおける身体近傍空間へ影響
3. 学会等名 第37回日本基礎心理学会, 専修大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小手川耕平, 安村明, 寺本涉
2. 発表標題 若齢者における歩行運動イメージの特徴
3. 学会等名 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会・日本バーチャルリアリティ学会心理学研究委員会, 高知工科大学永国寺キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下雅俊, 大澤智恵, 鈴木麻希, 郭霞, 貞方マキ子, 大塚結喜, 浅野孝平, 阿部修士, 積山薫
2. 発表標題 長年の楽器訓練経験と高齢者の海馬と小脳灰白質容積の関連
3. 学会等名 第21回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郭霞, 山下雅俊, 鈴木麻希, 大澤智恵, 浅野孝平, 阿部修士, 積山薫
2. 発表標題 楽器訓練参加による高齢者の脳の情報処理効率化 - fMRIを用いた検討 -
3. 学会等名 第21回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noda M, Sakamoto S, Cui Z, Teramoto W, Suzuki Y, Gyoba J.
2. 発表標題 Detection threshold of auditory apparent motion during linear self-motion.
3. 学会等名 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing 2018, Honolulu, Hawaii, USA (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Teramoto W.
2. 発表標題 Visuotactile sensory experience shared with others.
3. 学会等名 European Conference on Visual Perception, Free University Berlin, Berlin, Germany (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wada R, Hisanaga S, Kaku K, Kimura H, Suzuki M, Kawagoe T, Sekiyama K.
2. 発表標題 The effects of playing the keyboard harmonica on older adults' verbal memory.
3. 学会等名 The 15th World Congress of Music Therapy, Tsukuba (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Abd Aziz AAB, Igasaki T, Andersson M, Nyberg L, Kawagoe T, Nishiguchi S, Otsuka Y, Nakai R, Abe N, Yamada, M, Sekiyama K.
2. 発表標題 Relationship between Volume of Basal Ganglia and Cognitive/Motor Performance.
3. 学会等名 BrainConnects 2017, Kuala Lumpur, Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嶽本隼也, 坂本勝哉, 伊賀崎伴彦
2. 発表標題 事象関連同期 / 脱同期による運動イメージの評価
3. 学会等名 2018年日本生体医工学会九州支部学術講演会, 博多
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺本渉
2. 発表標題 身体近傍空間表現の自他共有
3. 学会等名 多感覚研究会, 熊本大学くすのき会館
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嶽本隼也, 坂本勝哉, 伊賀崎伴彦
2. 発表標題 サポートベクターマシンによる運動イメージの分類: 事象関連脱同期 / 同期と筋感覚的 / 視覚的運動イメージ
3. 学会等名 第70回電気・情報関係学会九州支部連合大会, 沖縄
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Abd Aziz AAB, Sekiyama K, Igasaki T.
2. 発表標題 A Fundamental Study of Cognitive and Mobility Performance in Elderly by MRI-based Volumetric Analysis.
3. 学会等名 第70回電気・情報関係学会九州支部連合大会, 沖縄
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田祥代
2. 発表標題 運動介入効果に関する問題提起
3. 学会等名 日本心理学会第81会大会（シンポジウムでの話題提供：高齢期の認知機能活性化とライフスタイルー認知症予防介入研究の最前線）、久留米シティプラザ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 和田玲子, 久永聡子, 郭 霞, 木村博子, 鈴木麻希, 川越敏和, 積山薫
2. 発表標題 楽器演奏訓練が高齢者の認知機能に与える効果について
3. 学会等名 日本心理学会第81会大会（シンポジウムでの話題提供：高齢期の認知機能活性化とライフスタイルー認知症予防介入研究の最前線）、久留米シティプラザ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郭霞, 鈴木暁子, 積山薫
2. 発表標題 楽器訓練が子どもの認知機能に与える効果について - ランダム化比較試験による検討 -
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会, 久留米シティプラザ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 積山薫
2. 発表標題 高齢期の認知機能活性化とライフスタイル：認知症予防介入研究の最前線（シンポジウム企画）
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会，久留米シティプラザ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 積山薫
2. 発表標題 健康寿命を延伸するライフスタイルとは
3. 学会等名 日本認知心理学会公開シンポジウム，九州大学箱崎キャンパス（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 積山薫
2. 発表標題 逆さの視野への知覚的順応 視覚運動学習を超えて
3. 学会等名 第9回多感覚研究会，熊本大学くすのき会館（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 積山薫
2. 発表標題 健康寿命を延伸するライフスタイルとは
3. 学会等名 同志社D.M.C.春のつどい，同志社大学新島会館（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田玲子, 久永聡子, 郭霞, 木村博子, 鈴木麻希, 川越敏和, 積山薫
2. 発表標題 楽器演奏訓練が高齢者の認知機能に与える効果について
3. 学会等名 日本音楽知覚認知学会平成28年度春季研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sekiyama K, Nishiguchi S, Kawagoe T, Yamada M, Suzuki M, Abe N, Otsuka Y, Nakai R, Yoshikawa S.
2. 発表標題 The impact of a dual-task exercise intervention on neural efficiency in older adults.
3. 学会等名 31th International Congress of Psychology, Invited Symposium "Lifespan neuroscience of human cognition: Principles of healthy and pathological aging" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sekiyama, K., Hisanaga, S., Shinozaki, J.
2. 発表標題 How do language backgrounds impact audiovisual speech perception across lifespan?
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sekiyama, K.
2. 発表標題 Physical exercise, motor ability, and cognitive function in older adults.
3. 学会等名 BrainConnects 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Suzuki, M., Sekiyama, K.
2 . 発表標題 Effects of advanced aging on motor imagery.
3 . 学会等名 31st International Congress of Psychology ( 国際学会 )
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Tanaka, Y., Sekiyama, K.
2 . 発表標題 Stimulus characteristics in Mental Rotation of feet.
3 . 学会等名 31st International Congress of Psychology ( 国際学会 )
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Teramoto, W., Higuchi, S., Hidaka, S., & Sugita, Y.
2 . 発表標題 Sound-contingent visual motion perception: Evidence from functional neuroimaging.
3 . 学会等名 Neuroscience2016 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Teramoto, W.
2 . 発表標題 Negative correlation between strength of visually induced self-motion and subsequent motion aftereffects.
3 . 学会等名 International Congress of Psychology 2016 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 Tsukiura T.
2. 発表標題 Discussant in the symposium of "Lifespan neuroscience of human cognition: Principles of healthy and pathological aging".
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西口周、高橋正樹、萬礼応、稲田拓、山田実、青山朋樹
2. 発表標題 地域在住高齢者の四方向ステップ動作反応時間と認知機能の関連地域在住高齢者の四方向ステップ動作反応時間と認知機能の関連
3. 学会等名 第6回日本認知症予防学会学術集会.
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西口周、山田実、城岡秀彦、坪山直生、青山朋樹
2. 発表標題 地域在住高齢者におけるサルコペニアが1年間の認知機能変化に与える影響の縦断的検討
3. 学会等名 第57回日本老年医学会学術集会.
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西口周、山田実、福谷直人、田代雄斗、城岡秀彦、野崎佑馬、山口萌、田坂精志朗、松原慶昌、坪山直生、青山朋樹
2. 発表標題 地域在住高齢者におけるサルコペニアと認知機能低下の縦断的関連性; 1年間の前向きコホートによる検証 -
3. 学会等名 第51回日本理学療法学会学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 城岡秀彦、西口周、青山朋樹
2. 発表標題 地域在住高齢者における主観的認知機能低下と転倒の関連性;客観的認知機能低下の影響を考慮した検討
3. 学会等名 第57回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nishiguchi S.
2. 発表標題 Multimodal exercise program can improve cognitive function and brain activation efficiency in older adults: Results from a randomized controlled trial.
3. 学会等名 31th International Congress of Psychology, Contributed Symposium / Thematic Session “Effect of aging and lifestyle on cognitive and brain functions” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sakamoto K, Takemoto J, Igasaki T, Murayama N
2. 発表標題 Brain activity evaluation in kinesthetic and visual motor imagery using electroencephalogram
3. 学会等名 The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tsuyuguchi N, Igasaki T, Murayama N
2. 発表標題 Coherence analysis of language function using the spatial filter technique of magnetoencephalography
3. 学会等名 The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ushijima T, Igasaki T, Murayama N
2. 発表標題 The relationship between voluntary contraction strength of tibialis anterior muscle and EEG-EMG coherence
3. 学会等名 The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sahroni A, Igasaki T, Murayama N
2. 発表標題 Sleep spindles analysis on typically developing and autistic children during sedation
3. 学会等名 The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 積山 薫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 484
3. 書名 「生涯にわたる心の可塑性：学びと交流の楽しさを通して」. 池田裕一編著『実践する総合生存学』（分担執筆）	

1. 著者名 横澤 一彦, 積山 薫, 西村 聡生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 211
3. 書名 身体と空間の表象：行動への統合	

1. 著者名 Teramoto W, Hidaka S, Sugita Y.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 484
3. 書名 Spatial biases in perception and cognition. Hubbard, T. L. (Ed.) (Chapter 11: Auditory bias in visual motion perception. Pp. 167-179)	

1. 著者名 樋口貴広	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉出版	5. 総ページ数 608
3. 書名 基礎心理学実験法ハンドブック（坂上らほか編，執筆項目：筋電図 Pp. 425-426）	

1. 著者名 樋口貴広・和泉謙二・真下英明・種村留美（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 シービーアール	5. 総ページ数 264
3. 書名 知覚に根ざしたリハビリテーション：実践と理論	

1. 著者名 斎藤秀之ら（編）樋口貴広	4. 発行年 2016年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 『感覚入力で挑む - 感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ』身体図式：行為を支える脳内身体表象	

1. 著者名 大竹恵子（編）樋口貴広	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 『保健と健康の心理学：ポジティブヘルスの実現』認知と行動のメカニズム	

1. 著者名 橋本衛	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ライフ・サイエンス	5. 総ページ数 162-184
3. 書名 常同行動（同じ行動の繰り返し）、抑うつ、不眠（睡眠障害）、意欲低下（アパシー）、拒食・食欲低下．在宅支援のための認知症BPSD対応ハンドブック（服部英幸編集）	

1. 著者名 橋本衛	4. 発行年 2016年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 96-98
3. 書名 Alzheimer型認知症の病態と薬物療法．脳神経外科診療プラクティス8 脳神経外科医が知っておきたい薬物治療の考え方と実際（清水宏明編集）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ライフスタイルと脳の働き - 超高齢社会を生き抜くための心理科学 -  <a href="https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html">https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html</a>          ライフスタイルと脳の働き - 超高齢社会を生き抜くための心理科学 -  <a href="https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html">https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html</a>          ライフスタイルと脳の働き - 超高齢社会を生き抜くための心理科学 -  <a href="https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html">https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html</a>          京都大学 大学院総合生存学館 積山 薫 研究室  <a href="https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/">https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/</a>  <a href="https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html">https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/research/project01.html</a></p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 衛 (HASHIMOTO Mamoru) (20452881)	近畿大学・医学部・教授  (34419)	
研究分担者	月浦 崇 (TSUKIURA Takashi) (30344112)	京都大学・人間・環境学研究所・教授  (14301)	
研究分担者	樋口 貴広 (HIGUCHI Takahiro) (30433171)	東京都立大学・人間健康科学研究科・教授  (22604)	
研究分担者	寺本 渉 (TERAMOTO Wataru) (30509089)	熊本大学・大学院人文社会科学部(文)・教授  (17401)	
研究分担者	山田 実 (YAMADA Minoru) (30525572)	筑波大学・人間系・教授  (12102)	
研究分担者	上田 祥代 (UEDA Sachiyo) (50771911)	豊橋技術科学大学・工学(系)研究科(研究院)・助教  (13904)	
研究分担者	鈴木 麻希 (SUZUKI Maki) (80422145)	大阪大学・連合小児発達学研究所・寄附講座講師  (14401)	
研究分担者	阿部 修士 (ABE Nobuhito) (90507922)	京都大学・こころの未来研究センター・准教授  (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大澤 智恵 (OHSAWA Chie) (90726093)	武庫川女子大学・音楽学部・准教授  (34517)	
研究分担者	曾雌 崇弘 (SOSHI Takahiro) (00381434)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部・室長  (82611)	
研究分担者	伊賀崎 伴彦 (IGASAKI Tomohiko) (70315282)	熊本大学・大学院先端科学研究部（工）・准教授  (17401)	削除：令和2年3月31日
研究分担者	四本 裕子 (YOTSUMOTO Yuko) (80580927)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  (12601)	削除：平成31年3月31日
研究分担者	西口 周 (NISIGUCHI Shu) (60780137)	東京工科大学・医療保健学部・助教  (32692)	削除：平成28年12月21日
研究分担者	松田 哲也 (MATSUDA Tetsuya) (30384720)	玉川大学・付置研究所・教授  (32639)	削除：平成30年3月31日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

スウェーデン	ウメオ大学			
--------	-------	--	--	--